

令和元年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	福光 賢治	活動年数	2年目
活動目標	<p><u>1. ワインぶどうの栽培・醸造技術の基本の習得</u></p> <p>(1)地元生産者の下での農業研修への参加 (2)地元または道内ワイナリーでの醸造研修への参加</p> <p><u>2. ワインの流通過程・消費者との関係づくりに関する学習・人脈作り</u></p> <p>(1)テイスティング講習会への参加 (2)流通関係者との人脈作り</p> <p><u>3. 農地の取得に向けた情報収集</u></p> <p>(1)農業委員会への相談 (2)農地取得に向けた立地条件等の検討</p> <p><u>4. 地域イベント企画・運営協力及び地域広報活動への着手</u></p> <p>(1)ワインマラニック他のイベント企画・運営への参画 (2)町の注目度・集客力を高めるための発信戦略の仮説作り</p>		
活動内容	<p><u>1. 農業研修への参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先：NIKI Hills Farm（仁木町旭台） ・期間：令和元年5月13日～11月15日（約6ヶ月間） ・内容：ワインぶどう栽培（ケルナー、シャルドネ、メルロー、ピノノワール、ソーヴィニヨンブラン他）、 その他、さくらんぼ収穫・ハウスまわり作業（ビニールがけ&撤去）、 生食ぶどうの摘房・収穫・剪定、醸造過程の一部（徐こう・選果）等 <p><u>2. 醸造研修への参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先：リタファーム&ワイナリー（余市町登町） ・期間：令和元年12月10日～現在 ・内容：瓶詰め、澱引き、タンク・樽移し、ラベル貼り・箱詰め等の出荷作業、 一部農作業 <p><u>3. 近隣生産者訪問・作業のお手伝い</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的：週末等を活用しての生産者ヒアリング、ぶどう畑・醸造施設の見学、 繁忙期のお手伝い（収穫等） 		

- ・訪問先：仁木…ル・レーヴ・ワイナリー、自然農園、他 家族経営の生産者若干
余市…弘津ヴィンヤード、登醸造、余市ワイナリー、ドメヌユイ、
三氣の辺、木村農園、中井観光農園、ドメヌタカヒコ、他
道内…10R ワイナリー、山崎ワイナリー、宝水ワイナリー（以上、空知）
松原農園（蘭越）、さっぽろ藤野ワイナリー

4. 道外生産者訪問

- ・目的：歴史あるワイン生産地のノウハウ見聞、北海道との対比、農業研修等
（以下、国内外とも渡航・訪問に要した費用はすべて自己負担）

(1)フランス

- ・期間：11月25日～12月3日（現地時間）
- ・訪問先：ラングドック（南部）…Zelige、Inebriati、
SITEVI（ワイン製造・農業用機材展示会）
シャンパーニュ（北部）…Moet & Chandon、Lauren Bernard、
Marc Herbrat、Gaiffe Burn、Charlot-Tennaux
アルザス（東北部）…Rohrer、Kleinknecht、Domaine Hurst、
Domaine Kirenbourg、Albert Boxler、Hugel、Christian Binner
※備考…訪問先は、Moet & Chandon 等の大手は別として、全体に家族経営で
かつ有機栽培・ビオディナミを実践している生産者の比重を多くした。

(2)長野

- ・期間：1月23日～25日
- ・訪問先：角藤農園（高山村）、カーヴハタノ（東御市）、ドメヌナカジマ（同上）、
メルシャン椀子ワイナリー（上田市）、ジオヒルズワイナリー（小諸市）、
御堂ぶどう団地（東御市）、他
※角藤農園では剪定他の農業研修をしていただいた。

(3)岩手・山形

- ・期間：2月4日、7日
- ・訪問先：アールペイザンワイナリー、エーデルワイン、亀ヶ森醸造所（以上、
岩手・花巻）、ウッディファーム&ワイナリー（山形・上山）

5. 各種研修・セミナーへの参加

- ・主な内容：①ワイン・農業関係の知識・技術研修と、②地域おこし協力隊向けの
ビジネスプラン策定に関する研修の大きく2方向

・参加研修：

- 7/5、10/11、2/21 北海道ワインアカデミー公開講座（北海道大学）
- 7/25 道産ワインの未来を語る（NIKI Hills）
- 8/9 道南ワインアカデミー（NIKI Hills）
- 8/27、11/13、2/3 後志農業改良普及センター 農村ゼミナール（余市町内）
- 11/8、12/12・13 移住・交流推進機構 起業支援セミナー（広島・東京）
- 11/18 道内ワイン生産者の集い（岩見沢）
- 12/17 新規就農資金計画説明会（仁木・北海道信金）
- 1/22 ワインブドウの病理に関する講演会（上田・信州大学繊維学部）
- 2/5・6 総務省 地域おこし協力隊起業・事業化研修（仙台）

6. 各種イベントのお手伝い

・参加・協力イベント：

- 7/14 「マラニック」ワイン販売（フルーツパークにき）
- 9/8 「ラフェト余市」準備・受付ボランティア（余市・登 寿の家）

7. 農地取得に向けた活動

- ・6月以降、農業委員会事務局（役場）、地域の農業委員の方を通じて農地の紹介をいただきつつ、情報収集・交渉にあたるも、農地の確保には至らず。
- ・秋以降は新たな農地情報の動きも少なくなる中、3月に入ってから、以前紹介のあった生産者に再度アプローチし、令和2年中の取得を目標に交渉を継続中。

■結果・所感

・昨年春、30年間の会社勤めを辞め、デスクワークの世界から肉体労働中心の世界に飛び込み、一年目の活動を終えることができた。現時点で地域のお役に立てているかと言われると甚だ心許ないが、自分なりに新しい環境に適応できたと思う。

・農業研修・醸造研修とも、各々シーズンを通して軸足となる研修先を決め、継続的に作業を行ったのが結果的によかったと思われ、また、若干なりとも自信につながった。お世話になった研修先の皆様に、この場を借りて御礼申し上げたい。

・就農に関しては、実際に地域のコミュニティに入って、時間をかけて動いてみないとわからないことが多く、情報収集の仕方ひとつとっても他の職種への転職とは大きく異なることを実感した。農地の取得プロセスにしても、現代的な考え方からすれば不合理に思える面もなくはないが、「手っ取り早く収入を得る手段」でなく、

「自然を相手に長期の時間軸の中で価値を生む公共財」と考えるようにしている。

・年間を通じて各種セミナー、イベント、農作業のお手伝いに参加する中で、仁木・余市の新興のワイン生産者との繋がりやお手伝いし合う関係ができたことはありがたかった。さらに、近隣の生産者だけでなく、国内外のワイン産地を訪問し、多くの生産者と接することができたのも非常に大きな収穫である。特にフランスでは、滞在期間後半のアルザス訪問は単独行動となり、拙い英文メールでのアポ取りから現地でのレンタカー利用まで、ある意味で「冒険」となった。ヒヤリとさせられることも多かったが、とっさの判断と現地の方の親切で何とか切り抜けることができた。こうした経験も研修期間中ならではだと思ふ。

・一方、自身の圃場や生産基盤を持たない状態で、「農業振興員」としての冬期の活動をどう設計するか、特にモチベーションの維持については課題であると感じた。昨冬は、町外の産地訪問や座学にかなり時間を充てたが、それでも時間的余裕があるので、例えば、日本とは気候が正反対の南半球のワイン生産地で長期滞在型の研修を受ける等の方法も考えられる。

・他の産地を訪問する中で、北海道のワインぶどうの栽培形態は、大手ワインメーカーの契約栽培農家の過去 30 年の地道な努力と経験がみ出したもので、それ自体ユニークかつ貴重なものであるが、他の地域では異なる手法も用いられており、現時点でスタンダードな手法も今後変わっていく可能性があると感じた。

・北海道は病虫害等の面で国内では相対的に恵まれている一方で、栽培～醸造までの一貫したロジックや、アカデミックな知見による裏付け等はこれからの課題であるように思う。技術的な蓄積については、より病虫害リスクの大きい長野等の産地が先行している印象があった。また、他の産地でも気候変動による栽培環境の激変に直面しており、南仏では夏期の日中の気温が摂氏 46 度を超え、長野では例年になく台風による水害が酷かったと聞く。北海道がそうした気候変動とどう折り合いをつけ、産地としての優位性を築くか、自分達の世代の責任であると感じる。

・長野のある若手生産者は、「長野でも新規参加者がそれぞれ好きな品種を作っているだけで、海外の銘醸地のように地域の個性を打ち出すには至っていない。気候と品種の適性すら十分考えられていない」と呟いていた。仁木・余市はどうだろう。

・フランスでも実感したが、有機栽培・減農薬栽培は、世界的にも時代のニーズとなっており、この動きは止まらないだろう。個人的にも関心があるが、実際の生産現場を見るにつけ、理想論にとどまらない成功させるためのノウハウの深化が必要と感じる。

	<p>・広島・東京でのビジネスプラン策定研修で、日本各地でワイン産業振興に関わる地域おこし協力隊メンバーの方々との接点ができ、その後の産地訪問でお世話になった方もいる。地域ごとの環境特性やご苦勞のポイント、行政の力の入れ具合についても知る機会となったが、ワイン生産を通じての地域おこしが全国的なトレンドになっているのは間違いない。一層の差別化が必要になるのは言うまでもない。</p> <p>・農地の取得については、年度末ギリギリになって取得交渉が動き出した。目に見える目標ができると、意欲の向上にもつながることを実感する。着実に生産基盤の確保に努めていきたい。</p> <p>・印象に残った生産者の言葉： 「農家は焦っちゃダメだ」 「いつまでも助手席（＝見習いの立場）にいないで自分で運転しなきゃ」 「ワインぶどうの樹は葉っぱの枚数が大事で、枝の長さではないんだ」 「ビオディナミ（有機農法の一つ）はどこでもできる、アマゾンでだってできる」</p>
自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>・地元の生産者や役場の方々のサポートをいただきつつ、手探りで進んできたが、活動目標としていたことについて概ね着手・実行でき、手応えを感じている。一方、流通・マーケティング関係については、ほぼ未着手であり、積み残し課題となった。</p> <p>●活動初年度からの自己評価及び進捗状況</p> <p>・同上</p>
抱負	<p>■研修モードから、多少なりとも自分で事業を回す実践モードへと転換していく。その前提となる自身の生産基盤・生活基盤の確保と整備に努めたい。</p> <p>(1)農地の取得と今後数年の経営計画の作成、資金調達 (2)農業研修、特に果樹栽培技術習得のための継続的努力 (3)委託醸造を通じての醸造技術の獲得と販売手法の研究</p>
その他	なし

※活動がわかる写真を掲載してください。(複数可)

■農業研修／苗植え (5/13 NIKI Hills Farm)



■農業研修／結束 (5/16 NIKI Hills Farm)



■農業研修／収穫 (10/1 NIKI Hills Farm)



■農業研修／剪定 (11/15 NIKI Hills Farm)



■醸造研修／瓶詰め (12/11 リタファーム&ワイナリー)



■道外生産者訪問／仏ラングドック (11/25 Zelige)

活動写真



(11/26 SITEVI : ワイン製造・農業用機材展示会見学)



■道外生産者訪問／仏シャンパーニュ

(11/28 Moet & Chandon、Lauren Bernard、Gaiffe Burn、Charlot-Tennaux)



■道外生産者訪問／仏アルザス (11/30 Rohrer、Kleinknecht)



(12/2 Domaine Hurst、Domaine Kirenbourg)



(12/3 Hugel、Christian Binner)



■道外生産者訪問／長野

(1/23 高山村 角藤農園、1/24 東御市 カーヴハタノ、ドメーヌナカジマ)



(1/25 上田市 メルシャン椀子)



■道外生産者訪問／岩手・山形

(2/3 花巻市 エーデルワイン、2/5 上山市 ウッディファーム)



■セミナーへの参加／北海道ワインアカデミー公開講座 (7/5 北大)、
道内ワイン生産者の集い (11/18 岩見沢)



■イベントのお手伝い／「マラニック」ワイン販売 (7/14 フルーツパークにぎ)

